

令和8年度名古屋市地域農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

名古屋市在住の農家は、①農業振興地域内の農地、②市内のその他の農地及び③市外の農地において営農している。

①については、低湿地が多く、他の作物への転換が難しいため、ほとんどが水稲単作地帯である。水稲以外では野菜を中心とした高収益作物の作付が見られる。

全体的に土地改良事業によるほ場整備が概ね終了しているので、市内の農業協同組合(以下「農協」という。)による農作業の受託が進み、一部は、担い手等が農協からさらに委託を受けて、農作業を実施している。

②については、農協に出荷していない農家による耕作が多く、③については、それぞれの地域と共同歩調をとりながらの農業が実施されている。

近年は、新しい品種の普及や技術の向上により、①及び③で小麦の作付が見られる。

また、特に①及び②について、農家の高齢化や市街化が進んでおり、農地面積の減少がみられる。こうした中、水稲作付面積の維持が課題となっている。

2 高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

市内の農業振興地域内は水稲単作地帯が多くを占めるため、計画的に作付出荷ができる加工用米、飼料用米、米粉用米を転換作物として推進していく。しかし、加工用米の需要の低迷や飼料用米の補助金額の見直しを受けて、今後は他の作物への転換についても推進していく必要がある。

小麦は愛知県全体で積極的に作付の拡大が推進されており、本市において需要が高い小麦については生産性・品質向上への取組を通じて、収益の維持及び増大を図る。

高収益作物については、取組農家が少ないことから、現在作付している高収益作物の更なる取組拡大を推進するとともに、新規の高収益作物導入も検討し、各農業者における収益の維持及び増大を図る。

また、有機栽培等の付加価値を高める農法を推進することで、収益力を強化し、農家所得の向上に努める。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

市内の農業振興地域内は水稲単作地帯が多くを占めるため、基本的には水田として集積、集約化を進めて、農業者の生産性向上を目指す。水田の利用状況を確認している中で、水稲(水張り)を組み入れない作付け体系が数年以上定着し、畑作物のみを生産し続けている水田がないか、今後も水稲作活用される見込みがないか等を点検する。

畑地化支援等を活用することによる畑地化の取組推進も検討するが、現状で畑作物の生産に取り組んでいる水田の多くが小規模に点在しており、団地化が困難であることに加え、地域や地権者との合意形成が難しいという課題がある。また、ブロックローテーション体系の構築についても、水田の規模が大きい上に、農作業のみを受託して、水稲の作付を希望している地権者の水田が点在していることから、実施が困難である。

今後も点検を実施しながら、畑地化への取組が可能な農地が生じたら推進していく。

4 作物ごとの取組方針等

(1)主食用米

低コスト化を図るため、直播栽培技術やスマート農業技術等の導入を推進すると共に、今後の需要動向を勘案しつつ、良質で、安全安心な米づくりを進める。

地産地消を推進するために、市内学校給食への提供に向けての生産と安定取引の推進を図ることに加えて、名古屋市と連携して有機米を給食へ提供することで、有機農業の理解促進や米の付加価値向上に努める。

(2)備蓄米 該当なし

(3)非主食用米

主食用米の需要減が見込まれる中、低湿地が多く畑作物への転換が難しいため、非主食用米(飼料用米、米粉用米、加工用米)を転換作物の中心作物に位置付け、産地交付金を活用し、計画的な作付け・出荷を推進する。

ア 飼料用米

飼料用米の生産拡大にあたっては、多収品種での作付拡大を図りつつ、コンタミ防止の観点から主食用品種でも対応する。

イ 米粉用米

米粉用米の生産拡大にあたっては、多収品種での作付拡大を図りつつ、コンタミ防止の観点から主食用品種でも対応する。販路の開拓を課題として取り組んでいく。

ウ 新市場開拓用米 該当なし

エ WCS 用稲 該当なし

オ 加工用米

加工用米は、一定の需要があるため生産を継続する。生産性向上に取り組みながら需要に応じた生産を行っていく。

(4)麦、大豆、飼料作物

小麦については、食料自給率向上の観点から重要な作物であり、愛知県全体で積極的に作付の拡大が推進されていることから、産地交付金を活用し、生産性・品質向上等への取組を通じ、作付面積を拡大していく。

大豆については、小麦に並ぶ重要な作物であることから、産地交付金を活用し、新規作付を推奨していく。

また、水田フル活用の観点から二毛作への取り組みを推進し、水田高度利用の面積拡大を図る。

(5)そば、なたね 該当なし

(6)地力増進作物 該当なし

(7)高収益作物

JA・行政による地産地消運動の後押しがあり、水田を活用した野菜生産の機運が高いため、「野菜」を高収益作物として、産地交付金を活用し、作付を推進する。

5 作物ごとの作付予定面積等

～

8 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり

※ 農業再生協議会の構成員一覧(会員名簿)を添付してください。

5 作物ごとの作付予定面積等

(単位:ha)

作物等	前年度作付面積等		当年度の作付予定面積等		令和8年度の作付目標面積等	
		うち 二毛作		うち 二毛作		うち 二毛作
主食用米	491.1		490.0		490.0	
備蓄米						
飼料用米	11.5		14.8		18.0	
米粉用米			0.2		0.2	
新市場開拓用米						
WCS用稲						
加工用米	32.1		54.0		59.5	
麦	18.0	11.3	21.8	14.6	22	14.6
大豆	1.3		1.5		1.5	
飼料作物						
・子実用とうもろこし						
そば						
なたね						
地力増進作物						
高収益作物	8.9		9.9		9.9	
・野菜	7.8		8.8		8.8	
・花き・花木	0.1		0.1		0.1	
・果樹	1.0		1		1	
・その他の高収益作物						
その他						
・加工用青刈り稲						
畑地化						

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標		
				前年度（実績）	目標値
1	加工用米 （基幹作）	加工用米の生産性向上等 の取組	取組面積	（令和7年度） 32.1ha	（令和8年度） 59.5ha
2	野菜 （基幹作）	高収益作物（食用） の取組（基幹作）	取組面積	306a	375a
3	飼料用米 （基幹作）	飼料用米の生産性・ 品質向上の取組	取組面積	11.5ha	18ha
4	米粉用米 （基幹作）	米粉用米の生産性・ 品質向上の取組	取組面積	0a	20a
5	小麦 （基幹作、二毛作）	小麦の生産性・ 品質向上の取組	取組面積	17.6ha	22ha
6	大豆 （基幹作）	大豆の生産性・ 品質向上の取組	取組面積	－	22a

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

7 産地交付金の活用方法の概要

都道府県名:愛知県

協議会名:名古屋市地域農業再生協議会

整理 番号	使途 ※1	作 期 等 ※2	単価 (円/10a)	対象作物 ※3	取組要件等 ※4
1	加工用米の生産性向上等の取組	1	6,000	加工用米(基幹作)	加工用米需要者団体等との出荷契約に基づき売り渡された加工用米であること等
2	高収益作物(食用)の取組(基幹作)	1	8,000	野菜(基幹作)	販売目的で作付されたもの等
3	飼料用米の生産性・品質向上の取組	1	6,000	飼料用米(基幹作)	需要者団体等との出荷契約に基づき売り渡された新規需要米であること等
4	米粉用米の生産性・品質向上の取組	1	6,500	米粉用米(基幹作)	需要者団体等との出荷契約に基づき売り渡された新規需要米であること等
5	小麦の生産性・品質向上の取組	1	6,000	小麦(基幹作)	排水対策(明渠・暗渠等)に取り組むこと等
5	小麦の生産性・品質向上の取組	2	6,000	小麦(二毛作)	排水対策(明渠・暗渠等)に取り組むこと等
6	大豆の生産安定の取組	1	6,500	大豆(基幹作)	排水対策(暗渠等)等の技術を実施すること等

※1 二毛作及び耕畜連携を対象とする使途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は使途の名称に「〇〇〇(二毛作)」、耕畜連携の場合は使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携)」と記入してください。

ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。

なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携・二毛作)」と記入してください。

※2 「作期等」は、基幹作を対象とする使途は「1」、二毛作を対象とする使途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする使途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする使途は「4」と記入してください。

※3 産地交付金の活用方法の明細(個票)の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙を付すことも可能です。

※4 産地交付金の活用方法の明細(個票)の具体的要件のうち取組要件等を記載してください。取組要件が複数ある場合には、代表的な取組のみの記載でも構いません。

●作物リスト

用途	作物	作物名
高収益作物(食用)の取組(基幹作)	野菜	れんこん
		きゅうり
		トマト
		なす
		ピーマン
		かぼちゃ
		とうがん
		すいか
		メロン
		キャベツ
		はくさい
		ほうれんそう
		ねぎ
		たまねぎ
		レタス
		だいこん
		にんじん
		さといも
		しょうが
		えだまめ
		さやいんげん
		とうもろこし
		ばれいしょ
		かんしょ
		アスパラガス
		キノコ類
		山菜類
		ブロッコリー
		しゅんぎく
		みつば
		ふき
		しそ
		かぶ
		カリフラワー
		グリーンピース
		ごぼう
		こまつな
		さやえんどう
		セルリー
		そらまめ
		ちんげんさい
		にら
		にんにく
		とうがらし
		みずな
		やまのいも
		いちご